



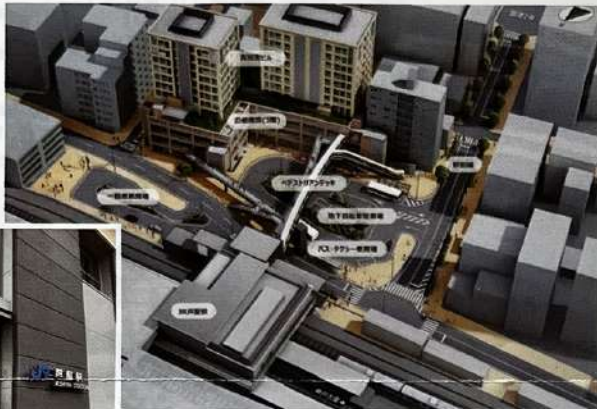
ご心配おかけしたJR再開発 経費削減して議会が合意

JR芦屋駅南のまちづくりは、交通整備の課題解決が必須であり、また地権者の商売や居住を保障するた

めの手法として熟議を重ね、再開発事業が選択されました。

都市計画、事業計画、再開発事業条例など、

長い年月をかけて進めてきたことを、突如議会が2年間にわたり予算執行を止めてきました。地価や資材の高騰で当初予算から膨らんだことに対し、長期的にみて財政破綻が起きないかどうかや、事業計画内で経費削減するよう市に求めることは議会総意で取り組み、約35億円を



見直し後のJR芦屋南のイメージ図。
リニューアルした駅舎



削減することができました。

しかし今回事業に反対してきた議員は、2年前に

「再開発事業内で経費を見直せ」と主張、1年前には

「街路整備事業に変更を」

挙句の果てには「一方通行にすれば経費が安く済む」と、これまでの経過も、交通結節点であるということ

も、国、県、JRなど関係機関との信頼や約束も全て

反故にするような提案にはあきれてしまいました。

議会での審査と議論の上とはいえ、2年間もあらゆ

る関係機関に多大な迷惑をかけてしまいました。

特に市民のためにと事業に協力してきてくださった地権者の方たちには、戦後すぐに芦屋市のまちづくりの一環として都市計画が策定されて以降、計画の変更、阪神淡路大震災で延期、土地利用の制限などを受け続け、2年間の事業の停止でご迷惑をおかけしてしまいました。心よりお詫び申し上げます。

議会本来の姿（これまでの計画を変更見直しするなら覚悟と責任を持って議員提出議案で審議する）（数の力ではなく民主的な議会運営をめざす）を取り戻し、市民主役のまちづくりになるよう今後も山口みさえは全力で頑張ります。

芦屋市議会議員

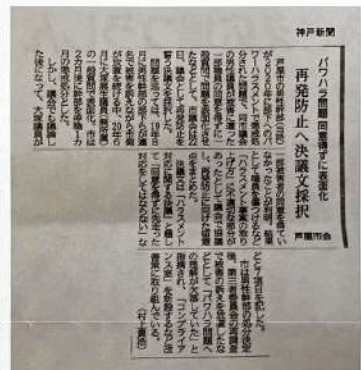
山口 みさえ

議員のパワハラ行為決議 2面
放課後児童クラブの教室確保を 2面

適応教室の体制について 2面
高齢者福祉の充実を 3面
その他

間違った審議反省し決議

パワハラ問題 被害者救済の視点が欠落



メディアにも注目され、市議員のパワハラ被害は、議会でも審議されてきました。その中で、被害者の言動が被害者をさらに傷つける行為がありました。山口みさえは早くから、この議員の言動を問題視してきましたが、3月議会では議会として反省し、決議をあげました。

① 大塚議員が、公の場で取り上げてはいけない個別案件を議会で取り上げること。

② 当該議員が、被害者（相談者）に了解を得ずに勝手に議会で取り上げたこと。

③ 当該議員が、「被害者に了解を得ている」と議事に嘘をついたこと。

④ 当該議員が嘘をついたことで、他の多くの議員も個別案件を不適切に取り上げてしまったこと。

⑤ 当該議員が、議会に嘘をついたことや、マスコミにリークしたことで、市の業務や行政にも多大な迷惑をかけたこと。

⑥ 二度と同じ過ちを繰り返さないために、議会全体でこの間のことを反省

児童増、教室を増やして 定員いっぱい学童保育

今回、取り上げたのは、精道小学校ひまわり学級専用教室の問題です。全小学校にある学童保育の教室は、全て専用で確保されています。ところがひまわり学級の学級分だけ専用で確保されず、子どもや支援員が不自由な思いをしていることを、山口みさえは2年続けて議会で取り上げてきました。教育委員会は、新年度の入級児童数が決定し児童



すし、コロナ禍で学校現場では感染者が多く出ているというのにこの対処（予算）はひどすぎます。異年齢の子どもたちが放課後の生活をともにしながら育ちあうという教育観点もなければ、安全に過ごすという安全配慮にも欠けており事故が起こつてからでは遅いと訴えました。

不登校児童の居場所 適応教室の条件整備を

いろいろな事情を抱えて学校に行けなくなる児童生徒が増えてきており、3月時点で不登校生徒の数は167人にもおよんでいます。全ての児童生徒が適応教室に通っているわけではなく、昨年決算委員会でも適応教室に通っている児童の報告を受けていたので、適応教室

住宅の段差解消 車椅子、ベビーカーも安心

改良住宅にお住いの住民さんから、「集合住宅にスロープが設置されていないので車椅子での移動に困っている」とのご相談があり、すぐに簡易な段差スロープで対処しながら、今後高齢化が進み車いすを利用される方も増えてくるし、ベビーカーや自転車を利用する人たちにとっても

高齢者24時間見守り住宅 国・県への予算措置を求める

高齢者の方を24時間見守る、高齢者住宅等安心確保事業が市内2カ所の市営住宅で展開されています。住宅にお住いの高齢者に何かあったときに、設置されているブザーを鳴らせばL S Aの支援員さんが、24時間すぐに対応してくれるシステムです。



老人会のみなさんと「茶屋さくら通り」を散歩

阪神淡路大震災後全国のモデル事業としてマスコミでも取り上げられ県からも委託金がありました。山口みさえはこの事業を充実させ、市内に拡大していくよう訴え続けてきました。

残念ながら県の行革の中で、委託金が削られ現在は、芦屋市の一般会計と介護保険事業特別会計の予算で行われています。この事業が高齢者の方にとって大切な事業だということは市とも共通認識ですが、ここ数年で1000万円近く介護保険事業特別会計からの負担が増加しており、このままでは事業を維持できるかどうか国県への予算要望が必要です。

スロープは必要ということで、粘り強く要望を続け、この度、工事で段差を解消することができました。「医者など外出時に助かる」と喜びの声が届きました。



段差がなくなり安心・安全に

芦屋市議会

ロシアのウクライナ侵攻に抗議

芦屋市議会は3月7日付で「ロシアによるウクライナ侵攻への抗議」を決議しました（抗議文はQR）。

武力による一方的な現状変更は、国際法違反であり、断じて容認することとはできません。またロシアの核兵器による威嚇や原発への攻撃は、世界

を恐怖に陥れています。今回のロシアしかり、戦争は「自衛」の名の下に行なわれてきました。



大学入学の支援制度 上限10万円を新設

経済的な理由により、大学等への進学をあきらめることがないよう、受験生をサポートするためこれまでの入学支度制度に加え、新たに大学等受験料支援金が新設されました。

申請は1人につき1回で、上限が10万円です（3校まで、1校当たり35000円を上限）。山口みさえは市の奨学金制度も含め教育の機会均等を保障するのは行政の役目であり、児童生徒は教育を受ける権利があることを強調し制度の充実を訴え続けてきました。

コロナ禍で、新設ごども園等の現地調査もできず、市民の方から直接お話を聞かせていただく機会も少ない中で、「子育て支援に関するアンケート」に取り組みました。アンケートでは、子育てに関して気になる点についてお伺いしましたが、子どもたちがコロナ状況で育つことの発達への影

アンケート協力ありがとうございました コロナの子育てへの影響を懸念

響が気になると答えた方が、30%を超えており、もっと園や所での子ども様子を知りたいと回答される方は90%でした。費用面や施設増設などの要望も高く貴重なご意見をいただき感謝致します。みなさまのご意見を今後子育て施策の充実に反映できるよう精いっぱい頑張ります。

「自衛」を名目に国内では「核兵器共有」や「敵地攻撃能力の保有」といった声が強まっていることに大きな懸念を覚えます。

私たち1人ひとりが関

心を持ち、

「武力で平和をつくることはできない」との声が大きくなり、

〈在日ロシア大使館へ抗議の声を〉

FAX 03-3505-0593

メール tokyo@mid.ru

みさえの 独り言



るが、脇役に徹する伊藤沙莉さんや筒井道隆さんもまたよしです。

このドラマを通して役者さんについてふと考えた。主役を演じる菅田将暉さんや第10話で主役を演じた門脇麦さんは、いろんな役に挑戦しているが、見るたびにそのドラマや映画の中で登場する人物に見えてくる。何をやって同じ人（ご本人）にしか見えない役者さんも多い中、常に役のその人に見えてくるのがすごい。故藤本義一さんの詩に、「人生は一幕の劇、主役を演じるもよし、脇役に徹するもまたよし」とあるが、脇役に徹する伊藤沙莉さんや筒井道隆さんもまたよしです。

月9のドラマによくはまる。最終話をむかえたが、「ミステリという勿れ」もどっぷりはまった。